

# 難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成22年9月1日発行  
編集・発行/富士見市立難波田城資料館  
**第45号**  
NEWS from NANBATAJYO

## 水塚の効用



難波田城資料館の近所にある水塚

難波田城公園の中に水塚（みづか、みずづか）があります。何の変哲もない小高く盛り土をしたような形をしていますが、里方（水田地帯）に住む人々の命を守る大切な場所です。水田地帯の低地では、水と仲良くしながらも、その威力の恐ろしさを知っています。水塚のまわりには、根をしっかりと張るカシの木、ケヤキ等が植えてあります。たいていの家が庭より1メートルから1.8メートル位高くして物置や土蔵を建て、洪水の時に避難する場所としました。

私が小学校（当時は国民学校と改名）に入学したばかりの初秋、昭和16年（1941）に洪水がおこりました。いつもの新河岸川の増水とは違い、堤防を乗り越えた水は徐々に庭の高さにせまり、大人達は池の魚を守るために応急処置として、池の周囲を綱で囲いました。しかし、増水した水が庭を流れるようになると水圧に押され壊れ、川になった庭を緋鯉たちが背びれを立てて勢いよく上って行きました。水かさは更に上がり、母屋の中にも入ってきました。最終的には床上10センチ位に達し、みかん箱や一斗缶を台にして畳をあげる等、大人達は夢中になって片付けをしました。

母屋の柱から庭先の水塚のカシの木に縄を結び、母屋と水塚を往復する時の命綱を

## 市民学芸員 野村 富雄



昭和16年の洪水、山室から旧水谷村を撮る

張りました。その時、親は子供たちに「綱の上流側を伝わって行け！綱が体を支えてくれるから」と注意し、「下流側だと力尽きて流されたら助けられない！」と言いました。水塚はまだ60センチ～70センチの余裕がありました。水塚の上には土蔵があり、そこを仮住まいとして、親や兄達は残りましたが、私以下の小さい子供たちは母方の実家に預けられることになりました。

新河岸川方面から水田地帯を見れば稲穂は全く見えず、濁流が海のように悠々と流れています。対岸は野方（高台の畑地）の山室や諏訪でした。難波田城資料館に保管されているような小舟に乗り、冠水している水田の上を山室方面に向かって漕ぎ出し、諏訪方面まで流されながら着き、岸沿いを水子方面まで行き、足場の良いところを選んで舟を降りました。落ち着くまで2週間余りの間、母方の実家で楽しく過ごし大勢の人にお世話になり、感謝しています。以後、このような洪水に備えるため、兄は農閑期になると毎年少ずつ屋敷に盛り土をしました。

近年は、新河岸川や荒川の土手も高く補強され大改修が続いています。また、水量調整のバイパスを通す等、過去の災害をくり返さないようになってきています。

# 古民家のならわし 秋編

## お月見のお話

暑かった夏も過ぎ、秋風が心地よい季節になると、お月見の行事がやってきます。今回は、お月見について二、三、お話をしましょう。

**1、お月見とは、**お月見は旧暦の8月15日に月を鑑賞する行事で、この日は「中秋の名月」、「十五夜」、「芋名月」と呼ばれます。この行事は奈良く平安時代のころ中国から日本に伝わってきたようです。日本では、旧暦の8月15日だけでなく9月13日にも月見をする風習があり、こちらは「十三夜」、「後の月」、「栗名月」と呼ばれています。

**2、お月見の日は、なぜ毎年ちがうの？** お月見は旧暦で行う行事です。旧暦（太陰太陽暦）は、月の満ち欠けで日付を決めるもので、現行の太陽暦（グレゴリオ暦）とはシステムが異なります。ちなみに、今年の中秋の名月は9月22日になります。

**3、中秋の満月は必ず満月なの？** 旧暦の日付と月の形と比べてみると、必ずしも15日が満月になるとは限りません。

**4、月見の供え物** 最近では月見といっでも、お店で買ったススキと月見団子をお供えするだけの家庭が多いようです。富士見市史掲載の上南畑における十三夜の供え物は、月見団子、まんじゅう、野菜、果物、そして花瓶にいけられたススキが箕の中に供えられています。

毎年、古民家においてお月見の供え物を見ることができます。



十五夜の季節展示(旧金子家)

えは、資料館側で行いました。

子供達はこのパルプ質を小さくちぎって、水と一緒にミキサーで、ドロドロの液状にします。そして、紙すきの型枠でパルプをすくいあげ、天日干しすれば完成です。

板の上に貼り付けて乾かしたのですが、皆さん頑張って厚くすいてくれたので、乾くのに一時間程かかってしまいました。この間、暑さにもめげず、竹馬やケンダマといった昔遊びや、古民家の金子家住宅でのクイズ「これな〜んだ？ どこにある？」に挑戦してくれたお友達に感謝・感謝です。



## おもしろ・なつかし体験 ③〇

### 牛乳パックの紙すき

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

夏は太陽の光が強く暑くて難波田城公園への来園者は少なくなる時期ですが、この光と熱を利用して行っているのが、今回紹介する「紙すき」です。

今年の梅雨明け宣言は7月17日(土)でした。翌18日(日)は快晴で、紙すきイベントにはふさわしい光と暑さの下、十数名の子供たちが「マイ・ペーパー」を作ってくれました。

材料の牛乳パックは二、三日水に浸しておいて、コーティングをはがし、白色のパルプ質だけにします。ここまでの下ごしら

# 人の創った道具★人の使った道具

ようさん

## 養蚕の道具

先月下旬から開催している「平成 22 年穀蔵テーマ展示 養蚕の道具」の展示資料の一部を紹介します。(23 年 8 月中旬まで展示予定)

### さかんだった養蚕

養蚕とは、カイコガの幼虫であるカイコ(蚕)を飼ってマユ(繭)を売る仕事のことで、マユからは絹糸が取れるので、カイコは「お蚕さま(オカイコサマ、オコサマ)」とよばれ、大切にされました。

富士見市では、明治時代から昭和 10 年代まで農家の副業としてさかんでしたが、現在では行っている家はありません。マユは 1 年に最高 6 回採れますが、多くの家では、春(ハルゴ、5~6 月)・夏(ナツゴ、8 月)・晩秋(バンシュウゴ、9 月下旬)の 3 回でした。

写真 1 は最盛期を物語る「南畑第一養蚕実行組合」の資料です。昭和 10 年(1935)の春蚕のマユを額装したもので、旧南畑村の農家 30 軒の当主名が併記されています。入間郡山根村(現毛呂山町)の養蚕指導員・小峰喜六氏が寄贈したとも書かれています。詳細は不明ですが、マユの出来が良かったことを記念して作られたものかもしれません。

### 育てる~桑こき器~

カイコは、卵が付いた種紙たねがみを買い、自宅で孵化ふかさせました。多くの家では母家の座敷にカイコ棚を 1~2 列組み立て、カイコを育てました。



写真 2 桑こき器

カイコのエサは桑の葉です。桑は、春には剪定バサミや桑切り鎌で枝ごと取り、夏や晩秋には良い葉を選んで桑摘みツメで摘みました。枝についた葉は、桑こき器(写真 2)でしごいて取りました。



写真 1 繭額(マユガク)

このコーナーでは、当資料館所蔵の資料を紹介いたします。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

稚蚕(一齢~三齢のカイコ)には包丁で細かく切った葉を与え、壮蚕(四齢・五齢のカイコ)には葉ごと与えました。ぬれた葉やしなびた葉は食べないので、一日に何度も取りに行きました。

### 上蔭~マブシ折り機~

五齢のカイコが桑を食べなくなり、体が透き通ってきたら、そろそろマユを作る合図。さらに尻尾の方から赤らみ、糸を吐く様子を見せたら、次々とマブシ(蔭)に移しました。この作業を上蔭(オコアゲとも)といい、家族総出で行いました。



写真 3 マブシ折り機

マブシは、カイコがマユをつくる足場です。明治時代末から昭和 10 年代までは、マブシ折り機(写真 3)で稲ワラをジグザグに折り曲げて作ったワラマブシを使いました。その後、改良マブシ、回転マブシを使うようになりました。

### 出荷~毛羽取り機~

上蔭後 10 日目、マユが完成したら、マブシから取り出しました。そして、毛羽取り機(写真 4)にかけて表面の毛羽を取り除いた後、選別をして上質のマユだけ



写真 4 毛羽取り機

をカイコカゴや袋に詰め、川越の市場や製糸会社に出荷しました。

出荷できないクズマユ(2 頭が作った大型のたまマユ、薄皮マユ、汚れマユなど)は、自宅で糸を取り、機織りをして絹織物とし、よそゆきの着用に仕立てました。

養蚕は手がかかり大変でしたが、短期間で米と同じくらいの収入になるため、副業にする家が多かったのです。

# \*\*\*秋のイベント予定\*\*\*

## ●イメージキャラクターは「なんばった」に決定!

開園 10 周年を記念して募集した難波田城公園のイメージキャラクターが、応募総数 156 点の中から決定しました。

最優秀作は、塩崎あゆ美さん(大阪府在住、デザイナー) の作品。選考委員特別賞はホセイニ綾子さん(板橋区在住、主婦)、命名者賞は、塩入大我[たいが]さん(ふじみ野小2年)に決まりました。応募または投票をしてくださった皆様、ありがとうございました。

なお、授賞式は旧金子家前庭で9月26日(日)午後1時からです。ぜひおいでください。

これから色々な場所で活躍する予定ですので、かわいがってください。



## ●企画展情報

### 秋季企画展「10年間のいただきもの」

開園 10 周年を記念して、この 10 年間に寄贈していただいた、さまざまな資料を紹介します。

会期/10月16日(土)~12月26日(日)

会場/難波田城資料館特別展示室

### 穀蔵テーマ展示「養蚕の道具」

市内で昭和 10 年代まで盛んだった養蚕ようさんに関する資料を約 20 点展示しています。

会期/8月21日(土)から約1年間

会場/難波田城公園内 穀蔵展示室

## ●イベント情報

9 月には、はたおり教室とふるさと体験「十五夜のだんごづくり」、10 月には、ふるさと探訪、拓本体験教室、さつまいも掘り、秋の古民家コンサート、ふるさと体験「わらぼうりづくり」など、様々なイベントを行います。ぜひ参加してください。詳しくはイベント案内、広報等をご覧ください。

## ●ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月26日(日) おはぎ

10月24日(日) ふかしいも

11月28日(日) 手打ちうどん

※時間は午前11時から。売り切れ次第終了です。

## 第三土曜は「いろりの日」



毎月第三土曜を「いろりの日」と定め、午後1時から3時の間、旧金子家住宅の囲炉裏で火を燃すとともに、市民学芸員が古民家や道具等についてのクイズやガドを行います。乞うご期待。

## ●おわびとお知らせ

ふるさと体験「藍の生葉染め」は、藍の生育状況が悪かったため、今年中止しました。

### <開園時間について>

10月から3月の間、公園の開園時間は午後5時です。資料館と古民家の閉館も午後5時です。



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時~午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時~午後6時(4月~9月) 午前9時~午後5時(10月~3月)